

# 山梨県神社庁報

# かざみた



令和8年新春号（第212号）



小室浅間神社 境内

役役役役役佐深金飯森日根羽石小土秋金桃渡藤宮石内内植高乙上小古小  
員員員員員員藤澤子田岡原津中田原尾肥山子井邊本下原藤藤松野黒司文山屋佐  
一一一一一一一宜雄直博盛泰英東忠寿一二文重貞正真正利真正  
同同同同同同忍彦紀樹文幸昇進司武宮也元祝郎彦範夫隆寛芳興洋厚行弘史

謹賀新年

## 敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共榮とを祈ること



## 年頭挨拶

序長 小佐野 正 史

新年あけましておめでとうございます。

皇紀二六八六年、令和八年丙午年を言祝ぎ皇室の弥栄と世界平和、そして皆様の平安をお祈り申し上げます。

本宗と仰ぐ神宮におかれましては、本年第六十三回神宮式年遷宮における御木曳行事が斎行されます。令和十五年の遷御に向け、式年遷宮の諸祭行事が順調に執り進められておりますこと、ご同慶の至りに存じます。

高齢化により人々の価値観と生活の有り様が劇的に変化し続けます。斯界を取り巻く現状は厳しさを増し、神社護持に大きな影響が及ぶことが憂慮されます。

皆様におかれましては、神社が地域で何か役割を果たしていくには、何をすれば最適かを地域ごとに計り、関係者一丸となつて地道に活動していくことが必要でありましょう。地域社会の心の拠り所としての役割を賑々しく斎行し、神社と地域が元気になればと考えます。

結びに、本年が午年にあやかつて我が国も飛躍し世の中がウマくいくことを切に願い、皆様方のご健勝ご多幸をご祈念申上げ、年頭のご挨拶といたします。



日々変化する社会の中で、この先も変わらぬ信仰を集め神社を護持していくか否かは現代の我々の取り組みに懸かっています。

神宮大麻曆頒布につきましては、増体に向け関係各位のご尽力を賜りました。尚一層の神宮奉贊と御遷宮の御盛儀を目指し、



## 新春を迎えて

山梨県神社総代会

会長 小 尾 武

明けましておめでとうござい

ます。本年も宜しくお願ひ申し上げ

て参る所存であります。また、前期よりの希望であります。

「総代研修会」を開催することが出来、総代会の和も一層強固になつた感を受けました。ご出席くださいました総代各位には厚く御礼申し上げます。去年は、

神社の祭典も賑わいを取り戻しました。この先は幕財活動が推進されますが、神社関係者にはご理解賜り、ご協力くださいますよう切にお願い申し上げます。

令和七年度緑陰子供会が教化委員会立案のもと、七月十九日、笛吹市一宮町末木の両之木八幡宮で東八代支部が担当し実施されました。子供たちの楽しい姿を見させていただきました。本年は春先に開催予定です。青少年の教化に期待いたしておりま

す。本年の十一月に山梨県神社関係者大会がYCC県民文化ホー

ルにて開催される予定です。

併せてこの大会を機に神社界の

諸行事に一丸となつて取り組ん

でいきたいと存じますのでご理

解ご協力を願い申し上げます。

不活動神社対策委員において

行事の中でも最も賑やかな御木曳行事がおこなわれます。一日

神領民として多くの人々が参加

します。

令和十年には鎮地祭が斎行され

ました。

令和十一年には宇治橋渡始式が行われ次々と重儀が斎行されています。この御遷宮は御社殿をはじめ御神宝を新調する物理的な事柄のみならず清々しく常に若々しく命を更新し、永遠の命を継承する民族の心の原点を

見つめ直す契機となり、さらには社会の結束を生み出し守り継がれた伝統文化を将来につなげることではありますが、不活動神社が解消出来ることは何よりも

大切な事柄のみならず清々しく常

に若々しく命を更新し、永遠の

命を継承する民族の心の原点を

見つめ直す契機となり、さらには社会の結束を生み出し守り継

がれた伝統文化を将来につなげ

ることではあります

が、人家がなく山里の元気な神

社に合祀との事でした。残念な

ことではあります

が、人家がなく山里の元気な神

本府十月定例評議員會

本序評議員  
上文司

厚

て次回の評議員会に報告する旨を述べて採決し報告の通り承認された。

全国神社総代会大会

岐中支部 総代会会長

敬神生活の綱領唱和、会長式辞の後、神社功労者の表彰式が行われました。

神社本庁の十月評議員会が大講堂にて去る十月二十四日に開催された。

午後一時に開会儀式。鷹司尚武統理が挨拶。来年の神社本庁八十周年を迎えるに当たつての思い等を述べた。次に来賓の神道政治連盟の打田会長が挨拶。続いて西高辻信良議長、三輪田泰生・吉野利明両副議長が着席。諸報告、議事録署名人が指名された。次に「令和六年五月定例評議員会における評議員提出決議案等の処理結果」が取り上げられ、吉川通泰副総長が説明。報告の通り承認された。次に「令和六年度神社本庁業務報告」が上程され、吉川副総長が説明。質疑では、昨今の相次ぐ別表神社を含めた本庁離脱につき本庁はどのような対応を行つているのか、何か打つ手はないのかなどの質問があり、離脱理由が明確ではない神社に対する一連の諸問題について」に対してはなす術がないなどの回答があつた。また「総長選任に關する一連の諸問題について」では議長が「議長預かり」とし

愛知県の小嶋今興議員から最近はインバウンドの影響でお守りを「まとめ買い」している状況を憂慮している。慎重に対処するよう要望するとの発言があつた。また山口県の黒神直大評議員からは、総長選任に関する二連の諸問題についての打開にかけて役員会で協議し次回の評議員会での報告を要望する意見があつた。自由討論は打ち切られ議事は終了となり、田中総長・鷹司統理の挨拶、神殿を拝礼し、全日程は閉じられた。

暫時休憩の後、「令和六年度一般会計歳入歳出決算」等決算関連の六議案が一括上程され、田中総長が大筋を、岡本典正財政部長心得が詳細を説明、花山院弘匡監事が監査報告。質疑無く原案通り可決された。続いて上程された「令和七年度一般会計歳入歳出補正予算」も質疑無く原案通り可決された。他に二つの議案が異議無く可決され自由討論になつた。自由討論では

去る十月二十八日、長野県長野市のホクト文化ホール（長野県民文化会館）において第六十回全国神社総代会大会が開催され、本県からも五十四名の関係者が参加されました。神社の総代を受けて長くなりましたが、色々の都合により初めで全国大会に参加させて頂きました。

表彰対象者は、全国で六十三名の方が表彰の栄を受け、県内では、一宮賀茂神社の川窪東海彦様と私の二名ですが本当に身上に余る光栄でございました。続いて、来賓の祝辞として、神社本庁統理、神宮大宮司、神道政治連盟会長、長野県知事、長野市長、国會議員の皆様よりお祝いのお言葉がありました。

全く度の喜び、また、言と続き、として、和歌山県の神社関係者より挨拶があり、最後に万歳奉唱、閉会の辞と進み、午後四時頃閉会となりました。

本県の参加者は、翌日戸隠神社、及び善光寺に参拝し、帰路につきました。

近年人口減少もあればまだ昭代の流れといいますか、新築住宅には神棚も無い家が多く、神社関係等への関心も薄れています。ように感じる中、全国より千人を超える関係者が参加され、大きな大会に驚いたしだいです。大会が始まり、式典前に清潤として長野県指定無形民族文化財の「戸隠神社太々神楽」が巨陰神社楽部により披露されました。

104



続いて、祖父は言語学者の金田一京介氏、父は国語学者の金田一春彦氏という、長野県立大字学学長の金田一真澄先生による「グローバルな視野で若者と一緒に地域の未来を」と題し記念講演があり、式典に入りました。式典も次第により進められ開会の辞、神宮遙拝、国歌斉唱

甲府支部  
上 村 明 子

## 新 穀 感 謝 祭

岐南支部  
一宮賀茂神社 稲葉政徳

令和七年十一月十三日からの神宮新穀感謝祭に参加させていたときました。私にとつて初めての伊勢神宮参拝が正式参拝となり、一般参拝よりも近い所から参拝出来るという事に感謝の気持ちを持ちながら参加させていただきました。

倭姫命をお祀りする倭姫宮への参拝。二千年以上前に天照大御神を伊勢へお連れになつた倭姫命様と旅行前に知り、楽しみにしておりました。清淨な落ち着いた雰囲気でとても心地良く参拝することが出来ました。

せんぐう館では遷宮に関わる様々な物が展示されており、とても見応えがありました。式年遷宮についてだけでなく伊勢神宮についてじっくり学ぶ事が出来ます。

宿泊の鳥羽シーサイドホテルでは、お部屋からの海の景色も素晴らしく、夕食会での餅つきイベントや皆様のカラオケ、神職方のお話など、楽しく過ごすことができました。

翌日の外宮御垣内参拝は厳かで清々しい気持ちで参拝させていただきました。日常では感じ



御神樂の鑑賞。心に響く雅楽の音色、優雅な舞に時間を忘れ拝見いたしました。おかげ横丁には、たくさんの人々が楽しんで散策されていました。「一生に一度はお伊勢参り」と言われた江戸時代の人々も参拝の後、現代の私たちと同じように楽しまれたのかと感じました。

帰りのバスの中でのビンゴ大会はとても盛り上がり、日頃の神職様、関係者の皆様々の良いご関係を伺えるひと時でした。

参拝旅行の二日間は、神職の皆様の丁寧なご案内でとても気持ち良く楽しく過ごすことが出来ました。

この新穀感謝祭は伊勢神宮崇敬会が主となり国民総参宮趣旨のもと行われているもので、今回で第七十一回を迎える。今年も神職様、関係者の皆様々の良いご関係を伺えるひと時でした。

五百五十名の大人数で、神宮へ山梨県神社関係者合わせて約五百五十名の大人数で、神宮へ五穀の実りや大神様の御恵に感謝の真心を捧げてまいりました。

一日目は、旧国幣大社であり、北伊勢大神宮とも仰ぎ奉られる多度大社へ正式参拝し、岐南支

部の参加者で多度の大自然を満喫し、その後毎年五月に行われる多度祭での上げ馬神事の坂を見学し、神馬である錦山と写真撮影を楽しみました。その後伊勢神宮に向かう人々への導きと

去る十一月十三日、十四日の両日に亘り、山梨県神社庁岐南支部で神職、氏子総代、崇敬者合わせてバス二台、総勢五十一名で伊勢の神宮で行われている新穀感謝祭へ参加をして参りました。



二日目はいよいよ神宮へ向い、外宮、内宮両宮での御垣内参拝を行ひ外宮では厳かに神樂が奉納され、支部一同遷宮に向けての意識を高める事が出来ました。

今後も神道教化に努め、有意義な旅行になるよう微力ながら努力精進したいと存じます。

る伊勢神宮の式年遷宮にあわせて建て替えが行われており、今年の鳥居は平成二十七年に建てられたもので、鳥居の御用材は式年遷宮で建て替えられた伊勢神宮内宮宇治橋の内側にある旧材であり、住民総出のお木曳行事を経て建てられました。その後、鳥羽シーサイドホテルで懇親会をし、心行くまで飲み歌い、親睦を深めました。

## 山梨県神社関係者大会

峡中支部 支部長 内 藤 正 隆

去る、令和七年十月十四日、山梨県神社関係者大会が、山梨YCC県民文化ホールに於いて開催され、約七百名が参加されました。先立つて神宮大麻曆頒布始祭が行されました。

神宮大麻は伊勢の神宮で頒布式が行われたのち、全国の都道府県に授けられ、本県でも同様に今回の頒布始祭を執り行います。後に各支部にて、更なる神事を執り行い、その後各神社へ授けられ、ようやく氏子へ頒布

される大変ありがたいお神札です。私たちは、お正月を迎える前に、神棚に新しい神宮大麻と、氏神様のお神札をお祀りし、「良い年でありますように」という願いを込めて、神さまに日々の感謝を捧げ、家族の幸せを願つてきました。

今回の神宮大麻曆頒布始祭では、我が峡中支部が担当となり、斎主小林英孝副支部長以下四名で奉仕させて頂きました。何れの神職も、殆どの祭祀は一人奉仕が多く、事前の習礼は欠かせませんが、支部内で集合し習礼を行い、互いに研鑽を深めるは非常に有意義と感じました。

当時は、皆さん緊張することなく、次第を進め、神道雅楽会による奏楽も厳かに、また女子神職会二名による「豊栄の舞」も優雅に奉納されました。最後に神社庁長より、神宮大麻が各支部長に授与されました。その後、神宮参事の吉川竜実様より、天皇陛下の御聽許により、愈々遷宮の緒祭事が始まり、各旨の講演がありました。

その後、神宮参事の吉川竜実様より、天皇陛下の御聽許により、愈々遷宮の緒祭事が始まり、各旨の講演がありました。



更に休憩の後、関係者大会式典が古屋副庁長の開会の辞より始まり、神宮遙拝、国歌斉唱、金子教化委員長の先導の「敬神生活の綱領」へと進み、小佐野神社庁長より、式辞が述べられました。次いで小尾総代会長の御挨拶がなされた後、飯田参事から庁務報告が行われました。

功労表彰では、神社庁表彰規程に基づき委員会にて、厳正なる選考・審査により決定した、令和七年度山梨県神社庁規程表彰者六名が紹介され、代表者が登壇し、小佐野庁長より表彰状が授与されました。また同じく委員会より厳正なる選考・審査により決定した、令和七年度山梨県神社庁総代会規程表彰者四名が紹介され、代表者が登壇し、小尾総代会長の先導による聖寿の万歳がされ、小山副庁長の閉会の辞によつて、大会は閉じました。

**神社庁規程表彰**

一宮神社  
禰宜 鈴木 晃



この度は過分なる表彰の栄を賜り深く感謝致しております。

上野原市、小菅

この度は過分なる表彰の栄を賜り深く感謝致しております。上野原市、小菅村の一部の山間部に点在する四十数社に奉職する父の補佐をするため國學院大學の神職養成講習を受け奉仕する中に早や三十年となりました。顧みれば県神社庁諸先輩、神職の方々より多くの指導を受け今日があると思います。教化委員として二十数年活動する中、緑陰子供会では県内各地の神社を巡り多くの子供達、神社神職の方々の奉仕している話等伺い課題を共有することができます。父も二十数年前に他界し現在は子（宮司）の補佐をしつつ、各奉職神社の護持運営を行つております。

先人達より受け継ぐ各神社に於いては役員、総代さん、又地域の人々と共に例祭、諸祭等神事、又神宮大麻領布等を通して

**被表彰者抱負**

多くのご交誼を受けながら奉職することは正に精神的な糧となり同じ時代を生きる人達と共に人生を語り合うそのような時間も大切と感じております。各神社のご神徳をいただき家々のご隆昌、人々の健勝なる事、地域の発展を祈るばかりです。少子高齢化の波には勝てず地域の小学校、中学校が閉校され市街地の学校にスクールバスにより送迎され教育を受けている現状です。そのような中にあっても市の空き屋対策として田舎暮らし、人々の移住の促進、地域活性化を模索している様子であり協力を惜しまないつもりであります。上野原地域は仕事先が八王子、立川方面に勤務している人が多く、総代さんも若い人が多く連絡を密にして神事を滞ることなく進め、祈りの場を共に守る努力を進めなければなりません。日々の奉仕は決して一人の力では成し得るものではありません。教化委員として二十数年活動する中、緑陰子供会では県内各地の神社を巡り多くの子供達、神社神職の方々の奉仕している話等伺い課題を共有することができます。父も二十数年前に他界し現在は子（宮司）の補佐をしつつ、各奉職神社の護持運営を行つております。

先人達より受け継ぐ各神社に於いては役員、総代さん、又地域の人々と共に例祭、諸祭等神事、又神宮大麻領布等を通して

**山梨県総代会規程表彰**

**下八幡二区長寿会**

この度の神社庁総代会規程表彰の授受につきましては、本会が組織されました。本会も老会を母体に平成二十五年に「下八幡二区長寿会」として発足し、今年で創設十二年を迎えています。本会の活動方針は、会員を生かした社会貢献活動、高齢者社会における生きがいと健康づくりを旨として会員の知識経験を生かした地域の守護神である八幡大神社がこれからも幾世代にわたって地域の守護神であるように長寿会も見守り活動に参加していきたいと思っています。



員と共同で行う清掃活動です。広い境内は手を抜くと雑草やゴミでたちまち荒れてしまいます。だから境内の清掃を心がけています。毎年七月と九月と十二月に行われる清掃活動には長寿会の奉仕活動の一環として参加しています。特に十二月は木々の落ち葉が枯葉となつて境内や周辺の用水路に溜まってしまうのでこの除去作業に苦労します。しかし、雑草が取り除かれ枯葉が始末されて、きれいに掃き清められた境内を眺めると苦労も喜びに代わります。八王子・若宮八幡大神社がこれからも幾世代にわたって地域の守護神であるように長寿会も見守り活動に参加していきたいと思っています。

# 全国教化会議

教化委員会副委員長 篠原敬逸

十一月二十七、二十八日両日に神社本庁に於いて全国教化会議が開催された。

終戦八十年の節目の年を迎えて「英靈顯彰の実践的教化手法について」を題材に、元靖國神社神職の野口次郎先生より基調講演を頂き、靖國神社、護國神社参拝運動を実践するという三年間の目標を掲げられた結果報告を分散会により各都道府県から発表された。併せて神宮の式年遷宮を迎えるにあたり、どのような問題があるか、課題があるかを報告、議論があつた。山梨県の参加分散会にあつては秋田県より毎週ラジオ放送で神社のことを発信する報告、高知県よりユーチューブにて教化をしている事、長崎県からはSNSを使いこれから発信しようとする報告があつた。私ども山梨県は春の靖國神社日帰り参拝や伊勢の神宮への親子参宮団旅行を実施していることを報告した。

どの県にも共通の問題点として少子化による参拝者の減少、

高齢化による祭典の存続危機があることがあり、これからは若い世代二十代から四十代をいかに神社に向き合わせるかが課題であると一致した。

二日目には、神社本庁への要

望などが議題となり、これから遷宮諸行事等の参加に対して、なるべく早く連絡、通知をして頂きたいこと、またチラシ、リーフレット等を幅広くお知らせして頂きたい事などが進言された。

分散会終了後に改めて全体会

にて各分散会からの報告があり、同じような報告が相ついた。中でも注目したのは「神職に対して教化をしなければいけない」と報告があり、教化委員会だけが頑張るのでは無く県内神職、総代からのお力添えが必要だと感じた。また、いろいろな配布物（リーフレット、冊子等）を配ることで安心してい

た。

さて、今後の教化目標として遷宮に対していかに周知するか、またご協力を仰ぐかを課題にして全会一致して終了した。

## 顧問参与会

富士御室浅間神社 横宜濱 将盛



この度、計らずも神職身分一級に昇級をさせていただき、またそれに伴い令和七年九月二十七日より、山梨県神社庁参与の末席に加わらせていただくこととなりました。

身に余る光榮に存じ上げると共に、大変恐縮であり、身の引き締まる思いでございます。私のような未熟者が、このような立場を拝命させていただきましたことは、偏に諸先生諸先輩方の、平素よりの格別なご指導ご高配のお陰と、深く御礼申し上げます。

富士御室浅間神社 横宜濱 将盛

この目標を教化委員会だけなく神職、氏子崇敬者にお知らせしなければ全く意味のない事になってしまふことを追記して報告いたします。

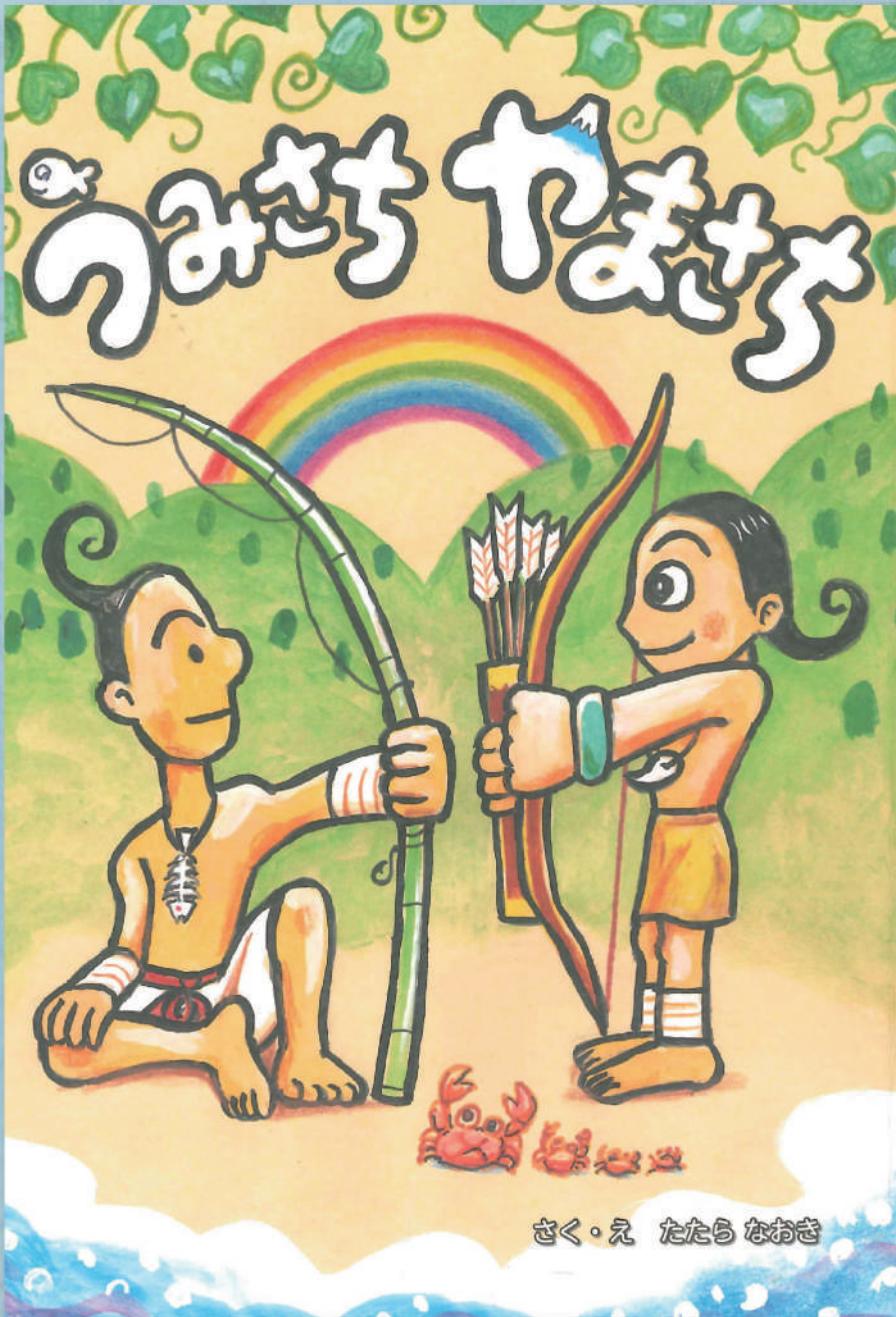
その間、第六十二回式年遷宮や令和の御代替わり等の慶事、また新型コロナウイルス感染症の拡大の危機等、様々な出来事が起る中、神職として変わらぬ祈りを捧げてこられましたことは、誠にご神威の賜物であると実感いたしております。

激動していく日本社会、及び国際情勢の中、第六十三回式年遷宮も愈々近づいてきております。及ばずながら一神職として、様々な事に取り組んでいかねばならないと決意しております。

甚だ浅学非才の身ではございますが、今後共、より一層我が国の隆昌、斯界の發展のために微力を尽くしてまいる所存でござりますので、皆様方には尚一層のご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

# 絵本 日本の神話

うみさちやまさち（第四話）



「一般財団法人 日本文化興隆財団」提供  
問い合わせ 東京都渋谷区千駄ヶ谷四一五  
電話 ○三一五七七五一一四五  
一冊 100円

お子さん、お孫さんと、  
神話の世界をお楽しみ下さい。

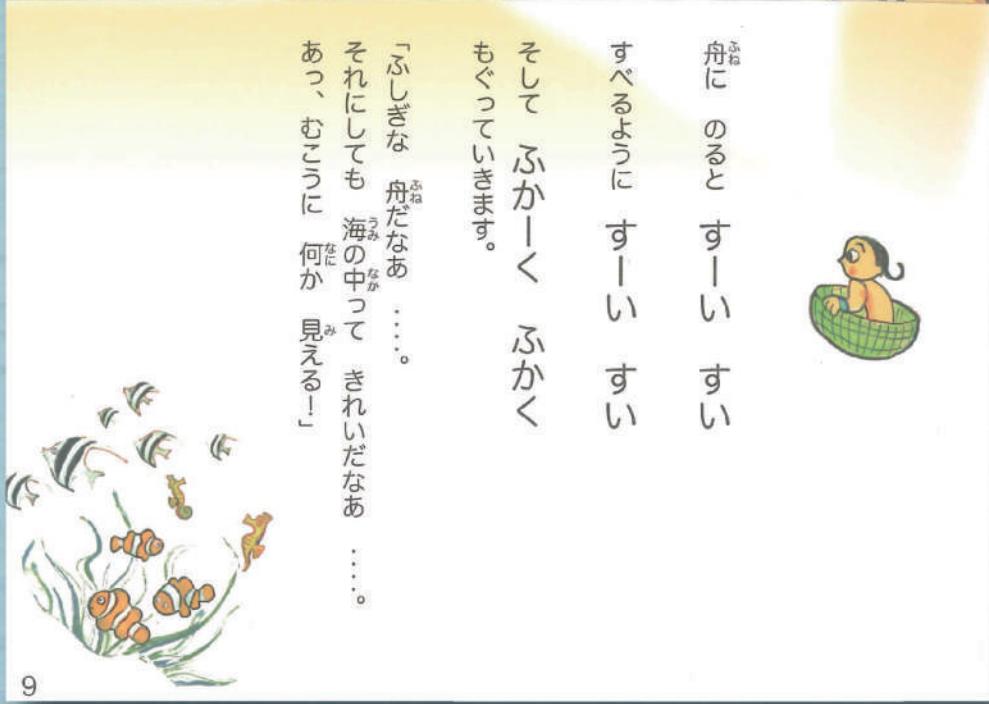


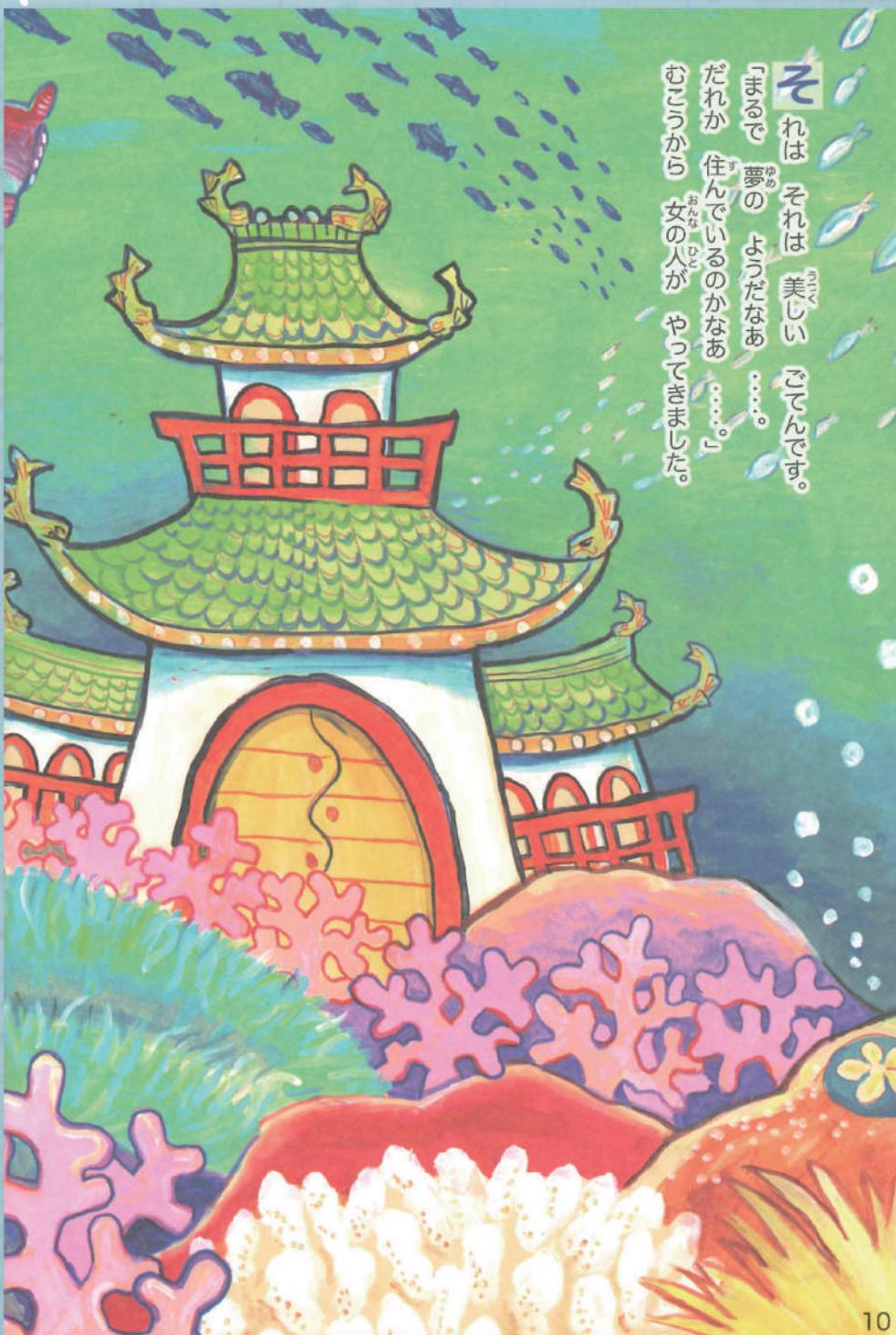
舟に のると すーい すい

すべるように すーい すい

そして ふかーく ふかく  
もぐっていきます。

「ふしぎな 舟だなあ ...」  
「それでも 海の中つて きれいだなあ ...」  
「あっ、むこうに 何か 見える!」  
「 ... 」







## 甲府刑務所秋季慰靈祭

山梨県神職保護司 稲葉政信

令和七年九月十九日午前十時、甲府刑務所において、秋季慰靈祭が斎行された。本慰靈祭は甲府刑務所の依頼により、山梨県神職保護司会が取りまとめて斎行するものである。祭典奉仕者は、斎主 飯田本庁教誨師、副斎主 宮下副会長、祭員 上文司監事、典儀 石原会長、雅楽笙・和琴 大嶋さん、篭築 金子宮司兼神職保護司副会長、龍笛中川宮司で、諸々設営手伝いで稲葉も参加をした。

慰靈祭の主祭神は、参列した被収容者三十四名に関わる被害者や家族知人で逝去された方々の御靈百十二柱であり、斎主に

より神籠に百十二柱の御靈代が供えられ、慰靈祭が始まった。まず修祓、副斎主により祓詞が

奏上され、祭員によりお祓いがなされた。次に、降靈、斎主と副斎主の警蹕により、百十二柱の御靈が神籠に招かれ、副斎主により献饌、斎主が祝詞を奏上し、参列者皆で「追慕歌」を斎



唱し、斎主玉串拝礼、刑務所青柳処遇部長玉串拝礼の後、副斎主により徹饌、最後に斎主・副斎主により昇靈を行い御靈和めの神事が滞り無く終了した。

続いて、飯田斎主より被收容者に向けて、慰靈祭を通しての社会での人との関わり方、命は先祖より受け継いで今があり、その命は未来の子供たち孫たちに派生するとの尊い講話がなされ、次に金子楽人より、雅楽は千五百年の歴史を持つ最古のオーケストラであるとの説明と各管弦の音色を紹介し、慰靈祭全体の幕を閉じた。

## 神青協一都七県野球大会

神社庁野球部 監督 濱武尊

去る九月二十四日、大井ふ頭中央海浜公園野球場にて第二十九回一都七県神職野球大会が開催されました。今年は合同チームが二組あり、全部で六人向けて、慰靈祭を通しての社会での人との関わり方、命は先祖より受け継いで今があり、その命は未来の子供たち孫たちに派生するとの尊い講話がなされ、次に金子楽人より、雅楽は千五百年の歴史を持つ最古のオーケストラであるとの説明と各管弦の音色を紹介し、慰靈祭全体の幕を閉じた。

さて、昨年二戦二敗しましたが、昨年と変わらない盛り上がりとなりました。

さて、昨年二戦二敗しましたが、昨年こそは一勝はしたいところであります。今年はユニフォームも新しくして爽やかな気持ちで大会に臨みました。結果から言えば昨年こそは一勝はしたいところであります。今年はユニフォームも新しくして爽やかな気持ちで大会に臨みました。結果から言えば昨年こそは一勝はしたいところであります。



ものとなってしましましたが、エラーが減つたり、時にはダブルプレーを取つたりする場面もあり、昨年に比べ好プレーが増えたように思え、上達を感じたところです。

また、本来であれば二試合が終わつたところで山梨県の出番は終わりとなっていたのですが、本年主管であり、同じくチームとして出番を終えた茨城県より練習試合のお誘いがあり、希

望者で番外試合を行いました。審判もおらず、練習試合というよりは試合形式の練習といつた方が正しいかもしませんが、これぞ正に懇親だと強く感じた一時であります。

## 支部・総代会だより

### 峡北支部

浅尾新田諏訪大神社

総代長 窪田幸仁

地元浅尾新田の氏子の総代として、令和五年度より浅尾新田諏訪大神社の運営に初めて携わつて来ました。氏子の総数は一〇〇軒程で地元としては大きな地域です。私自身、地元には十年前に戻り、以前は他の地域に住居を構えていた関係で、なかなか神社との関わりも無く、行事などに参加した回数も少なかつたと記憶しております。前総代より引き継ぎを受け、令和五年、まだまだコロナウイルスの感染の終息がみえず、春、秋、新年の祭りは神事のみのさみしい記憶が残っています。令和六年、春祭りの打ち合わせにおいて今年度より五年振りの通常開催と決定し、神楽保存会による神楽の舞の披露、公民館運営委員による飲食の提供等がお

こなれましたが、その際総代全員が未経験であり、どのような進行が良いのか十五所神社の篠原宮司の意見も聞きながら、以前とは違った進行を行う事になりました。その際神楽保存会の舞をおこないましたが桜の満開の中素晴らしい神事が進行し、その後の直会も大勢の老若男女の氏子関係者が集まり、餅投げお菓子等の配布があり盛り上がり中神事が終了しました。

運営するにあたり準備境内の清掃打ち合わせが想像以上に大きだったのと、終わつた後の達成感、最後に関係者との反省会時私は皆さんの前で「感動した」と申し上げ労をねぎらつた言葉を述べました。令和六年の三回の神事、七年度の神事も無事に終わり安堵しております。大雨の中、雪が舞う中でも氏子の皆さんのかの笑顔は今も心の中にあります。十五所神社の篠原宮司はじめ総代、区民の大勢の協力で今まで進められて来た事に感謝で一杯です。

今年九月、境内の桜の幹回り五十七センチの木が倒木した際の区民の協力も、総代にも限界が

あつて協力を惜しまぬ姿も印象的でした。これまで総代の皆さ人と運営し、地域の文化を継承する事の大切さ、無くしてはならないとの思いは何物に代えがたいものだと改めて感じております。将来の神社運営を考えると、世代交代が進み勿論若い方

が沢山いた方が良いでしょうが、総代として神社の歴史や先人達の努力を理解しながら今の時代に対応した運営を考える時期でもあります。時間は掛かるが変化している時代だからこそ改革が求められていると思います。

今回の経験はこれから地域で暮らす者として色々な場面において良い経験となりました。

### 南都留支部

副支部長 田邊将之

当南都留支部に於いては「南都留神社関係者大会」と銘打ち、神宮大麻曆頒布始奉告祭を大々的に斎行しています。本年度的には南都留神社関係者大会は令和七年十月三十日に行われまし

た。前日までに支部の事務局と若手が祭壇や必要な祭具・事務用品・配布物等を準備します。斎主・祭員・伶人の選出は支部会議にて諮詢されますが、委任され執行部一任で選抜されます。当日は執行部・事務局・斎主・祭員・伶人が午前十時に集合し会場である「ハイランドリゾートホテル＆スパ」（富士吉田市内）に祭壇等を搬入し会場設営を行います。午後一時に習礼を行着装し開始時間である午後三時を待ちます。来賓には県神社庁長・同顧問・同参事・県神社総代会長・富士吉田市長（本年はご欠席）をお迎え申し上げ参列者は管内神職総代・氏子青年会・敬神婦人会合わせて約三三〇名程度であります。大会は三部構成で第一部が神宮大麻曆頒布始奉告祭、第二部が式典（総会）、第三部が直会（懇親会）です。

大変誇らしい盛大な行事ではあります。毎年盛会で開催出来ます事はご関係各位の深いご理解とご協力あつてそのものと紙面をお借りし厚く御礼申し上げ報告とさせて頂きます。

## 祭典を斎行して

穂見諏訪十五所神社  
厄神祭

宮司 森 越 義 建

八ヶ岳の南麓に位置する、北杜市長坂上条に鎮座する三社を合祀する旧郷社、穂見・諏訪・十五所神社は例年の毎、一年の終わりの月、十二月六日午後二時、鎮守の森に清々しく鳴り響く太鼓の音を合図に、年内の種々災厄を除ける「厄神祭」の式典を、神社総代、世話人等が参列のもと嚴肅に斎行いたしました。この祭りの起源は定かではありませんが、神社年中行事において斎行の記録が記されてることからも少なくとも数百年前から行われて来た祭事と思われます。

現在は厄年除けも加わりますが病気や様々な災厄除けと、国家国民の安寧を祈り、厳肅に執り行われます。

厄神（やくじん）疫神（えきじん）に対する信仰は古く、令義解には年中祭祀として「鎮花祭」が規定されています。これが当社の厄神祭と性格を



同じくするものと考えられます。

鎮花祭は春、当社では、これに対をなす冬、一年の終末期に重きを置き、厄神祭が行われてきたと考えられます。

古来より、年の節目に厄神、疫神に対するお祭りが行われてきましたことが伺えます。

いざれにせよ、災厄をもたらす厄神、疫神に対し丁重にお祭り又祈祷、祈願を行うことにより、災厄を防ぐ靈威ある神へと変わるとの考え方に基づき斎行し、日々の生活の平穡を祈る祭りではないかと考えます。

筒粥神事  
小室浅間神社  
宮司 渡 邊 平一郎

私の奉職する小室浅間神社では、二つの占い神事がある。一つは九月の例大祭で斎行する流鏑馬神事、もう一つは正月に斎行する筒粥神事である。当社には代々占人と呼ばれる家系があります。流鏑馬の占人を馬占人、筒粥の占人を粥占人と呼ぶ。当社の筒粥神事は筒粥祭として斎行する。先ず一月十四日午後九時位に本殿に於いて筒粥神事開始の祭儀を行い、その後筒粥殿に移動して神事を行うのである。粥占人と呼ぶ占人が正月の十日頃から準備を開始する。準備はまず粥柱に用いられる道具類の制作からはじまる。釜の中の粥を作かる。釜の中の粥をかきまわす搅拌棒、粥の中に立てる粥柱、燠炭占いに用いる木のコマ、粥をとりわける箸棒などが用意される。粥柱の下にはさみ込まれ、その中にに入る粥の量によって判断される二十四本のヨシの茎は占人の渡辺家に家の庭にしめ縄を張つて用けられた葭池の中で育てられた清浄なヨシを刈つたものでありこの渡辺家が営む葭池温泉もここから命名された。この二十四本のヨシが順番に、夕顔・大麦・蚕・小麦・麻・稻・晚生稻・キビ・粟である。

晚生粟・小豆・ヒエ・晚生ヒエ・大豆・晚生大豆・芋・ソバ・菜の作物と当神社の筒粥占の特徴である富士山への道者の多少、次いで甲州・信州・駿州・相州・武州などからの登山者数の多少など二十四に分けて占いをする。この時、筒粥殿には宮司を始めとする神職・占人の渡辺家一族・神社総代と今日では本殿での筒粥祭に参列した一般見学者希望者は入殿できる。本殿での祭儀の後、午後十時頃より大祓詞奏上する。後着火して粥を炊き始める。通常午前一時位に仕上がるが、通夜で薪を燃やしての作業な為も三枚重ねでも真黒になる位で最も痛い大変な行事である。室内で薪を燃やしての作業な為の後着火して粥を炊き始める。通常午前一時位に仕上がるが、も三枚重ねでも真黒になる位でから準備を開始する。準備はまず粥柱に用いられる道具類の制作からはじまる。釜の中の粥を作かる。釜の中の粥の入り量で吉凶を判断する。二十四種類の吉凶を占わって後釜を本殿前に移し、残った燠炭で一月から十二月までの天気を占う、準備で作った十二個のコマを燠炭の上に置いてその燃え具合により、月までの天気を占う、準備で作つた二十四本のヨシを燠炭の上に置いてその燃え具合により、風の吹き具合も同時に占う神事である。すべてが終わつて明け方に神社から氏子、一般に公表される。長い伝統に培われた祭儀であるが、占人の渡辺一族の奉仕によるところが大きい祭儀である。

年男  
年女

# 令和八年丙午



## 人生七回目の干支を迎えて

北野天神社 宮司 進 藤 柏 男



昭和十七年長月八日山梨県北巨摩郡小淵沢村、父は山梨県府職員、母は祖父母と稻作、養蚕農家の四人兄弟の長男として生まれ高校、専門学校を経て東洋のスイスと言われた諷訪の精密工場に就職、工作機械の設計技術者として青春を過ごしました。その後故有りて、独立、精密工場を経営。バブル期を経てドルショック、オイルショックなど幾多の苦難を乗り越えて、今は長男に会社は譲り神職の修業を日指したのは地元北野天神社の神楽保存会で二十代から舞、太鼓などで奉仕していた当時の宮司さんに後継者としての資格取得を勧められて居りましたが、本業が忙しく、本格的に修業を始めたのは五十代に届くころでした。初学は京都國學院、次に東京の國學院大學、最後は神宮道場の修業でした。

この間平成二十三年三月十一日東日本大震災が発生、私は中堅研修会に茨城県大洗の磯前神社にて修行中でした、この日は三月と言えども海岸で禊をするのに薄水が張る程の寒さでした。当日は研修最終日という事で磯前神社に研修終了奉告祭を済ませ各先生方の挨拶、総代長の挨拶の中でこの地は過去津波の心配は無いとの事でした。昼に宿舎で直会をして午後大洗から帰りの電車に乗り柏駅当たりで地震に遭遇、電車は大揺れ、乗客全員に外に出るよう指示があり、駅前の跨線橋上は今にも橋が外れんばかりの有様でした。何とか揺れが収まり同行の志村宮司さんと今夜の宿を探そうと巷を防循いましたがホテルは満杯でした。あても無く歩いている中、柏市の緊急避難所が開設されて居り一夜の宿にありつけました。避難所では食料、毛布など提供され、此の時程、人の情けを受ける事に感動した事は在りませんでした。二日後無事に帰途につくことが出来、此れも神明のご加護と感謝に堪えませんでした。艱難辛苦幾星霜の人生ですが、幸いにして昨年から後継者として孫が神職の資格を取得し未熟ながら峡北支部の手伝いをし、今年は山梨県神社庁神殿新嘗祭のご奉仕を孫と一緒にさせて頂きこの上ない喜びと関係各位のご配慮に有難く感謝申し上げます。今後につきましては、「今暫くこの世に未練がありますれば人生百年時代、百里の道は九十九里を半ば」とす。」を心して、田舎神主、世のため人の為尽くして神社護持に勤めて参ります。

## 令和八年に想う

菅田天神社 櫛宜 今 澤 寛万呂



時の経つのは早いもので令和八年九月には、七十二歳となり五回目の年男となります。年を重ねる毎に、一時間・一日・一か月・一年を短く感じ、あつという間に時は過ぎ去ってしまいます。いつも時間を大切にしたいものだと思っていますが、今のご時勢何かとせわしく、万人に平等に与えられた時間を疎かにしてしまっているのではないかと反省しきりの毎日です。

この年になると、体も至る所が悲鳴を上げ、内科・眼科・歯科・整形外科と毎日のように病院通いをしているのが実状です。こうなると、病気と仲よく付き合っていくしかないと思います。健康第一、体が資本です。日常生活がままならない中でも、神への奉仕は誠心誠意務めなければなりません。東山梨支部の七社、東八代支部の六社計十三社の宮司を兼務する私にとっては、十三社中の一社ですが、氏子様にとってはその神社がすべてなので、一社一社丁寧に努めることが大切であると考えます。しかし、各兼務社は年に一回例大祭を斎行するだけの神社が少なくありません。例大祭のみではなく、元旦祭や祈年祭・新嘗祭・大祓式等、多くの祭事を斎行したいと考えています。また、諸祭も神様優先から地域優先へと変わり、四月の第一日曜日とか十月の第二日曜日等に行う神社が増えています。祭に子どもがいないのは寂しいものなので仕方ないことかも知れませんが、出来るだけ従来の本日に行えるように働きかけていきたいと思っています。

結びに、今の日本は平和で安全な国になりました。その一要因として、日本人がとことん宗教に固執しないことが挙げられます。子どもが生まれると神社でお宮参り・七五三詣を行い、結婚式は教会で、葬儀は寺院で行うのが当たり前のようになっています。神社神道を啓発することはもちろん重要なですが、一部の特異な宗教を除いた他の正当な宗教とは、共存共榮を図ることも大切であると考えます。戦争もない平和な今を継続していくことが、子どもたちの輝く未来を保障していくことに繋がると信じています。一日一日を大切にし、日々心を込めて奉仕していきたいと考えています。

## 年男を迎えて



令和八年、四十七歳の年男として新たな一年を迎えるにあたり、これまでの歩みを振り返り、あらためて身の引き締まる思いでおります。

私は、父が諏訪大社に奉職していたご縁により、長野県の下諏訪町にて生を受けました。幼い頃から神社が日常のそばにあり、季節ごとの祭典や地域に息づく伝統行事に触れながら育った経験は、私の心根を形づくる大きな糧となりました。

高校卒業後には、神道を学び神明奉仕の道を志して熱田神宮学院へ進みました。学院での生活は、早朝から莊厳なる熱田神宮にて社頭奉仕に励み、午後は講義に臨むという恵まれた環境の中で厳しくも充実した日々を過ごし、同じ志を持つ仲間に支えられながら神職としての基礎を身につけ無事に資格を賜りました。

平成十年の卒業後は、静岡県の小國神社に奉職し、二十四年という長きにわたる奉仕のご縁をいただきました。この歳月の中では、毎朝の境内清掃から始まる日々のご奉仕、年間を通じた祭典奉仕や境内整備など多岐にわたる務めに携わり、神職としての姿勢や心構えを深く学ばせていただきました。これらの経験は、私にとりまして、まさにかけがえのない大切な時間であります。

令和四年には実家のある北杜市大泉町へ戻り、代々お護りしてきた逸見神社の禰宜として新たな奉仕の道を歩み始めました。さらに良きご縁をいただき、現在は甲府市の住吉神社に奉職し、日々の神明奉仕に心を尽くしております。年男として迎える本年、これまで賜つてまいりました数多くのご縁に深く感謝しつつ、日々の祭祀に誠実に向き合い、氏子崇敬者の皆様とのつながりを大切にしながら、神職としての務めを一層丁寧に積み重ねてまいる所存です。

未だ至らぬ点も多くございますが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願ひ申し上げます。

## 年男を迎えて



武田神社 権禰宜 中村譲

早いもので私が生まれてから、干支が三周もしてしまいました。一週目、二週目の年男の時には気にも留めていなかつたのですが、此度、原稿の依頼を頂戴し思いを馳せる良い機会をいただいたと感謝する次第であります。

私は静岡県浜松市に生まれ、神社とは関係ない家庭で育ちました。高校時代に大学進学を考え、さて何を学ぼうかと思つていると、親や祖父母に神道を学びたいと伝えた時は目を丸くしていましたが、それでも反対せず快く背中を押してくれたことは今でも感謝しています。卒業後は現在もご奉仕させていただいております武田神社へと奉職を致しました。

山梨県へ来ましたのが平成二十五年、神職となり今年で十四年目に突入します。思い返せばあつという間の十三年間。短く感じる一方で、短い中でもあり谷ありだつたと感じます。慣れぬ土地で右も左も分からぬ私をここまで導いて下さいました諸先輩方に感謝を申し上げる次第でございます。それと同時に、これまで教えていただいた事を生かしているか、糧とできているのか自問自答する日々であります。

こうやって過去を振り返りますと、様々な感謝の思い出ばかりがよみがえります。本年も多くの方々に助けられながら過ごしていくことになろうかと思います。その一つ一つに感謝の気持ちを忘れずに、日々の神明奉仕に励んでいきたいと思います。まだ未熟者ではございますが今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

## 神殿新嘗祭

峠北支部

藤原永起

山梨県はお米の収穫量こそ多くはないが、梨北米や幻のお米と言われる農林四八号など美味しいお米が作られる产地である。去る令和七年十一月五日山梨県神社庁神殿にて、そのお米を中心とする五穀の豊穣に感謝する新嘗祭が執り行われた。

輪番にて務める神社庁神殿の祭祀は此度峠北支部がご奉仕の任となつた。斎主以下五名の祭員にて斎行し、神前に和稻の初穂をはじめ種々の神饌を供え、県内氏子崇敬者の安寧と秋の実りに感謝の祝詞を奏し祈りが捧げられた。

令和の米験動と言われる珍事が起こつた本年であつたが、日本人の米離れが露呈された様に見える。麺類やパンなど小麦からなる食をとることが増えた近年であるが、厳密にはそれらの小麦は古来の五穀に含まれない。そもそもお米を第一とする神道の考えはどこまで理解されていいのである。教育の現場である学校で五穀豊穣と新嘗祭について話された。授業内容を聞くと五穀（稻・麦・粟・稗・豆）の栄養価について話されたといふ。地域の若者と話す機会があり、お米が神社にとつて大

切であるという話になつた。すると、若者は「神社では神様よりお米が大切なのですね」と訊ねてきた。一瞬言葉に詰まつたが、丁寧に諭した記憶がある。

『日本書紀』の三大神勅にある斎庭稻穂は、天照大御神様がお米を広め食しなさいという宣であるが、今やそのことを知る日本人は関係者以外皆無であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

米験動を機に、米の国日本であ

ることを儀礼と共に継承してい

くことは私達の責務であろう。

新嘗祭は、伊勢の神宮を始め

全国の神社で斎行され、神道に

とつて最たる重儀である。美味

しいお米の取れる山梨県の神社

神殿にて奉仕することの意義

と今更ながらではあるが、教化

活動の重大さを感じるところで

ある。各御社頭では、御神田を

有し初穂や神酒を祭に供えるが、

それは一年の人の動き、神社の

祭祀の中心がお米だからである。

&lt;p

# 山梨県神道青年会創立七十五周年記念事業 「グアム南太平洋戦歿者慰靈祭」

山梨県神道青年会 会長  
同 実行委員長

小 佐 野 正 崇

先ず以つて祖国の礎として戦下に散華せられた全戦没者に対し、追悼と感謝の誠を捧げたいと思う。

去る令和七年十一月二十六日、本年戦後八十年を迎えるに当たり、祖国日本を守るために玉砕した英靈の御靈を慰め、今日ある繁栄と平和を報告し感謝の誠を捧げることを目的に「グアム南太平洋戦歿者慰靈祭」を斎行した。本事業は南太平洋に散つた多くの英靈に対し、慰靈祭を営むことによって少しでも英靈の思いに触れ、平和と大東亜戦の意味を考え、青年神職としてのあり方を今一度問い合わせたいとの想いから、当会創立七十五周年記念事業の一環として企画したもので、当会会員八名が参加した。

十一月二十五日、成田空港にて結団式を行い目的地であるグアム島へ向かった。翌二十六日午前十一時、グアム島ジエゴにあるグアム和平慰靈公苑に於いて当会創立七十五周年実行委員会丹沢祭典委員長が斎主を務め

慰靈祭を斎行。南太平洋戦歿者慰靈協会を代表して参列された同協会理事の时任佐絵子氏は「神社界からこの場所へ慰靈祭に来られたのは記憶の中では初めてではないだろうか。我々がいまこうして幸せに暮らしているのも命をかけて国を守つてこられた英靈たちのおかげ。私たち管理者としても、いつ誰が來ても戦歿者へ手を合わせられるよう、この施設を維持していくことを誓う。」と述べた。当会としても、終戦から八十年が過ぎ遺族の減少とともにに戦争の記憶が風化されることが懸念されるなか、我々は慰靈に祈りを捧げることはもちろんのこと、英靈達のおかげでいまの平和な我が國があることに感謝し、引き続き英靈顕彰を行い、十年、二十年先を見据えてこの想いを次の世代へ継承していくことを慰靈碑の前に誓った。祭典後はグアム島最期の決戦地である又木山戦闘司令部壕跡を訪れ、会員と共に手を合わせ、この地で玉砕された御靈が安らかならん

ことを願つた。  
午後には太平洋戦争記念館ビジターセンターを拝観し、日米両軍における激戦の記録を先住民であるチャモロ人の悲惨な記憶と共に学んだ。その後、平成二十九年にグアム政府庁舎内に建立されたグアム鎮魂社を参拝し、当時激戦区となつたアサン展望台を訪問。此の地での犠牲者のことを考えると胸の詰まる思いが致し、マンガン山に遺る第二十九師団司令部跡を始めとする戦跡を順次巡るにつけ、先の大戦の記憶を風化させず次世代に語り継ぐ重要性を再認識せずにはいられなかつた。

戦後八十年が過ぎ、遺族や戦友の高齢化に伴い直接の関係者は減少の一途を辿つている。自分が遺族の減少とともにに戦争の記憶が風化されることを認識し、鎮魂の心をいつまでも伝えることが日本の縁者にも必ず英靈がおられるというふうに思ふ。鎮魂の心をいつまでも伝えることが日本人の責務だ。祖国を守る為に必死に戦い、散つていかれた英靈によつて今の平和な日本があることを我々は決して忘れてはならない。

春には桜の花が咲き、秋には



# 今後の予定

## ○神社庁神殿祈年祭並びに

### 教化講演会のお知らせ

神社庁神殿祈年祭並びに教化講演会を左記の日程で斎行いたします。

一、日 時 記

令和八年二月十日（火曜・仏滅）

一、日 程

午後一時三〇分

一、講 師

小林 郁 先生

一、場 所  
山梨県神社庁 神殿



## ○靖國神社、山梨縣護國神社 参拝旅行

### ○杜のこども会

神道政治連盟山梨県本部では、恒例となりました靖國神社参拝旅行を左記の日程で実施致します。詳細な内容につきましては現在検討中ですので、決まり次第ご案内致します。

会を夏休み期間に開催しておりますが、近年は酷暑の為、試験的に春休み期間に開催します。

記

一、日 時

令和八年四月二日（木）

一、場 所  
一宮賀茂神社

身延町下山二六五一

一、内 容（参加費無料）  
・神様にお参り、雅楽鑑賞  
・竹で箸作り、勾玉作り  
・お昼はカレーライス

護國神社の参拝につきましては、別途開催致します。

一、日 程

令和八年三月二十六日  
(木曜・先負)



神棚差し上げます

TEL 055-288-0003  
山梨県神社庁

神社庁  
ホームページ

